

## 令和4年度 第2回吉田町総合計画等審議会（議事録）

### 1. 開催日時

令和5年3月24日（金）10:00～11:46

### 2. 開催場所

吉田町役場2階 町民ホール

### 3. 出席者

| 氏名     | 役職等                                         | 備考     |
|--------|---------------------------------------------|--------|
| 増田 学   | 吉田町商工会長                                     |        |
| 松浦 光紀  | 南駿河湾漁業協同組合常務理事・吉田支所担当理事                     |        |
| 田島 逸雄  | 吉田町社会福祉協議会長                                 |        |
| 増田 竜彦  | 住吉区自治会長                                     |        |
| 松浦 祐之  | 川尻区自治会長                                     |        |
| 桐田 不二雄 | 片岡区自治会長                                     |        |
| 中村 道雄  | 北区自治会長（自治会連合会長）                             | 副会長    |
| 岩根 政次  | 吉田町さわやかクラブ連合会                               |        |
| 松浦 セツ子 | 吉田町女性団体連絡協議会長                               |        |
| 田中 啓   | 静岡文化芸術大学教授                                  | 会長     |
| 大箸 武史  | ㈱静岡銀行吉田支店長                                  |        |
| 瀧井 一也  | 島田掛川信用金庫吉田支店長                               |        |
| 鈴木 佐知子 | 吉田町男女共同参画プラン検討委員会委員<br>（特別養護老人ホーム住吉杉の子園施設長） |        |
| 大石 和歌菜 | 保育園保護者（すみれ保育園）<br>吉田町男女共同参画プラン検討委員会委員       |        |
| 成岡 和子  | 島田公共職業安定所長                                  |        |
| 鈴木 史朗  | 静岡県中部地域局長                                   | オブザーバー |

（敬称略）

※ 塚本成男委員、大石千恵子委員、八木達良委員、藁科昌利委員、飯田千恵子委員が欠席。  
増田学委員、大箸武史委員が途中退席。

#### 4. 町長あいさつ

- ・本日の議題は、第6次吉田町総合計画と第4次国土利用計画の策定についてとなる。
- ・令和5年度が第5次総合計画の最終年となるため、次の第6次総合計画の策定を進めており、本日はそれに向けた基礎調査の結果をご報告し、またご意見をいただきたい。
- ・基礎調査としては、まちづくり住民意識調査、まちづくりタウンミーティング、各種団体ヒアリング、高校生まちづくりミーティングを実施している。
- ・また、第4次国土利用計画の策定については、土地利用計画の見直しについてみなさまにご報告申し上げて、ご意見を賜りたい。

#### 5. 会長あいさつ

【静岡文化芸術大学 田中啓委員】

- ・本日は今年度最後の総合計画等審議会であり、町長からご説明のあったとおり、第6次吉田町総合計画と第4次国土利用計画の策定に関する審議、検討を進めていくという大変重要なステップとなっている。
- ・世の中は新型コロナウイルス感染症が一旦少し落ち着いてホッとしているが、一方で物価上昇や海外の金融不安などの心配事もある。
- ・吉田町の計画を検討していくわけではあるが、日本国内を取り巻く状況を踏まえながらよい計画にしていきたい。

#### 6. 新委員紹介

令和4年10月1日付で、委員番号16の島田掛川信用金庫吉田支店長の瀧井一也委員が委嘱されたため、事務局から紹介した。なお、任期については、令和4年10月1日から令和5年8月17日までの期間とさせていただく。

#### 7. 議事

##### 7.1. 第6次吉田町総合計画の策定について

事務局より「次第等会議資料」、「資料 No. 1 第6次吉田町総合計画策定方針」、「資料 No. 2 第6次吉田町総合計画策定に向けた基礎調査結果」、「資料 No. 3-1 住民意識調査（速報版）」、「資料 No. 3-2 まちづくりタウンミーティング（開催記録）」、「資料 No. 3-3 第6次吉田町総合計画策定に向けた各種団体ヒアリング調査（実施記録）」、「資料 No. 3-4 高校生まちづくりミーティング（開催記録）」を説明した。

##### ● 【田中会長】

- ・資料 No. 1 は基本構想の策定方針をまとめたものであり、資料 No. 2 以降は策定する上での基礎資料となるものだとご理解いただきたい。これらの資料について、ご不明点やご意見をいただきたい。

● 【〇〇委員】

- ・団体ヒアリングでも話をさせていただき、資料 No. 3-3 の P 5 にもあるが、避難訓練時の海上自衛隊、公安保安庁、静岡県との連絡手段について、無線の周波数が統一されていないため、一斉に連絡を取ることができないので、連絡手段の構築をしていただきたい。

→【田中会長】

- ・目災害時の関連機関との通信手段の構築について、町のほうでの問題意識や対応方針があれば伺いたい。

→【事務局】

- ・総合防災訓練においてそのような課題が発生していることは防災課で把握しているので、今後検討していく。

→【田中会長】

- ・吉田町以外の県内でも同様の課題があるのか。

→【鈴木オブザーバー】

- ・不勉強で今のような意見があるとは知らなかった。早速持ち帰って、県庁の危機管理の担当に確認したい。

→【田中会長】

- ・県とうまく連携が取れるとよい。

● 【〇〇委員】

- ・資料 No. 3-1 の P 2 の「吉田町の住みやすさ」について、20代以下の若い人に「住みにくい」が多いが、その意見は特定の地域に集中しているのか、若い世代は全体的に「住みにくい」と回答しているのか、また「住みにくい」と感じる理由を知りたい。高齢者からしたら住みやすいのはありがたいことであるが、若者が住みやすいまちにすることが大事である。近年静岡県は移住先の上に挙がっているが、移住する人は20～30代が多い。

→【事務局】

- ・今回の資料 No. 3-1 ではこのような資料となっているが、住民意識調査結果は年齢別、地域別で集計しており、事業によってその結果を活用していきたい。細かく分類しすぎるとサンプル数が少なくなり、結果に信頼性がなくなるという問題が生じるが、十分に信頼性を確保される条件の下に資料を作成していきたい。

→【田中会長】

- ・20代以下についてのご意見をいただいたが、その上の30～40代も子育てをしている世代であり重要であるため、合わせて分析をしていただきたい。

● 【田中会長】

- ・現行計画策定時にも同様の住民意識調査やまちづくりミーティング等を実施していると思われるが、前回調査との結果に目立った違いはあるのか、または同様の傾向なのか。

→【事務局】

- ・今回の調査は、現時点での町民のみなさまがどのような意見を持っているかを把握することに重点を置いて実施している。とはいえ、前回調査時から継続して実施している項目もあり、それを比較することも重要である。傾向としては、近年は防災対策に関心が高い。また公共交通に対する不満

は普遍的に高い。

→【田中会長】

- ・私も前回策定時から資料を拝見しており、全体的には大きく変わらない印象である。ただ、おっしゃるように防災対策や水害に対する関心が高まっており、公共交通に関する不満は継続している。また、雑草が多いという意見には驚いている。

→【事務局】

- ・団体ヒアリングで自治会だけでなく多くの団体から雑草に関する意見が得られた。ここ数年多いので対策を検討中である。例えば道路の植樹部分を雑草が生えないように舗装するなど。

→【田中会長】

- ・総合計画に記載するまでもないが、実施計画では対応していただきたい。

● 【〇〇委員】

- ・資料 No. 3-1 の P 3 の住みにくい理由にどの地区でも「公共交通機関の便が悪い」を上位に挙げている。地域公共交通会議の中でも同様の議論が挙がっており、第6次総合計画では具体的な方向性を示して欲しい。

→【田中会長】

- ・公共交通については現行計画でも課題として挙がっていたので、どこかのタイミングで抜本的にきちんと対応していただきたい。

● 【〇〇委員】

- ・豪雨の後に上流から流れてくるゴミの処理について、町から補助を多少はもらっているが足りていない。重機2台、10トン車4台、4トン車10台を使ってゴミを運んだり、大井川からの流沈木をレッカーで上げたりをボランティアでやっている。町とはいつも話をしているが、ずっと同じ状態なのでお願いしたい。

→【田中会長】

- ・災害時に流れてくるゴミ処理の対応について、水害の恐れもあるということで町も認識していると思われるが、問題意識を持って協議していただきたい。

● 【〇〇委員】

- ・介護人材の不足について、法人でも努力しなければならないので、外国人技能実習生を4名採用するという取り組みをしている。在宅サービスを支える要となる居宅のケアマネジャーの高齢化が課題となっている。

→【田中会長】

- ・介護人材については以前もコメントをいただいているが深刻な問題であり、町でも協議していただきたい。

● 【〇〇委員】

- ・資料を見るとやはり住吉区は災害が心配だということが突出している。川尻には防潮堤が完成し、次は住吉区の防潮堤の計画であり、先日のヒアリングでは次の総合計画で完成すると説明を受けたので、ぜひやっていただきたい。近年の気象現象の影響で住吉区は大雨が降るとすぐに水が溢れる。

排水機場について今後力を入れていただきたい。現行計画にも入ったが、第6次総合計画でも引き続き重点的に入れていただきたい。8年の計画であるができるだけ速やかに進めていただきたい。また、以前は川尻区もそうだったように、津波災害を心配して子ども世代が北区や片岡区に移住する人が多く、住吉区では高齢化が進んでいる。そういった観点からもぜひ安全対策を重点的に計画の中に盛り込んでいただきたい。

→【田中会長】

- ・資料にもあるように町長もその課題を認識されていて、対応方針を示されているのでその方向で進めていただきたい。また、災害はいつ起きるかわからないのでできるだけ早い段階で実現していただきたい。

●【田中会長】

- ・今回は第6次総合計画のスタートの段階ということでみなさんにご意見をいただいた。今後は具体的な案が出てきて、いろいろなご意見をいただくプロセスに入るので、またその時にはお願いしたい。

## 7.2. 第4次吉田町国土利用計画の策定について

事務局より「資料 No. 4 第4次吉田町国土利用計画の策定について」、「参考資料 1 土地利用構想図(案)」を説明した。

●【田中会長】

- ・国土利用計画は、第6次吉田町総合計画と同時に進める。スケジュールを見ると、本年の11月頃に素案が固まり、パブリックコメントを実施する流れである。国土利用計画は、吉田町の町域をどのような用途にし、開発等を行っていくかを示していくものである。これらの資料について、ご不明点やご意見をいただきたい。

●【〇〇委員】

- ・昭和の時代時からの計画道路があり、その状態が放置されていることから土地の売買ができないという声をよく聞く。計画を進めることはいいが、本当に計画した道路を作るのかを検討した上で計画を練らないといけない。地権者が代替わりすることで、計画当初の地権者から話が変わっていくことがあるので、過去に計画されている道路について調べた上で、計画を策定していただきたい。

→【田中会長】

- ・道路計画と国土利用計画の兼ね合いについて、事務局からコメントはあるか。

→【事務局】

- ・都市計画道路については、都市計画法の下で都市計画決定されていて規制がかかっている。現在計画されている都市計画道路は、優先順位はあるが進めていく方針。国土利用計画のゾーニングは、今後の町の方向性を示しているもので、直接規制がかかってくるものではない。この国土利用計画を基に各個別法で規制をかけていくことになる。あくまでも国土利用計画は、町の方向性を示すものである。

● 【〇〇委員】

- ・参考資料1の小山城周辺観光交流ゾーンについて、大半が農地であるが、農地の問題をどのように考えてゾーンを設定しているのか。

→【事務局】

- ・小山城周辺観光交流ゾーンについては、小山城を中心とした範囲内で交流ゾーンを作っていく。大半が農地であるが、各個別法で審議していかないといけない。ゾーン内の農地をすべて潰すというわけではなく、この範囲の中で交流を考えていきたい。

→【〇〇委員】

- ・今の内容では理解に苦しむ。現在、ゾーン内でJAが農園を造成している。一方で耕作放棄地が多いので、まずはその問題を解決すべきではないか。

→【事務局】

- ・交流ゾーンと言っても、すべてを宅地化するのではない。

→【〇〇委員】

- ・宅地化にこだわっているのではない。交流ゾーンについて、農地をどのように考えていくのかという方向性がないと、言葉だけでゾーンを考えていくと行き詰まると思う。より具体的に計画を考えてほしい。

→【事務局】

- ・観光交流ゾーンとなると、様々な農地の使い方が考えられる。どの場所をどういった用途として活用していくのか、具体的な案として示していく必要はある。あくまでも国土利用計画ではゾーニングしているが、具体的に事業を進める時は、内容を議論していかないといけない。

→【〇〇委員】

- ・都市的土地利用検討ゾーンについて、具体的に考えている内容は。

→【事務局】

- ・都市的土地利用検討ゾーンについては、現時点で具体的な考えはない。今後、開発等を進めていく中で検討する余地はある。実際に検討する時は、個別法で対応しなければならない。

→【〇〇委員】

- ・旧吉田島田線を境に、東側は宅地転用が可能で、西側は農業振興地域と言われている。こういった新しいゾーンを検討することで、区分けを変更する計画はあるか。

→【事務局】

- ・個別法で農業振興地域を変更していくのか検討しなければならない。何をするにしても、町の方向性を示していくことが重要である。

→【田中会長】

- ・現行の国土利用計画には、ゾーンの具体的な内容や方向性が示されていないが、別途詳細に説明されているものはあるか。

→【事務局】

- ・詳細に説明されているものはない。

→【田中会長】

- ・町として、町民や事業者等との共有が必要であると思うので、補足的な資料も準備した方がいい。

→【事務局】

- ・現行の国土利用計画のP12からP14において、文章として各ゾーンの具体的な内容や方向性を

記載している。この文章の内容を可視化したものが、P 1 5 の土地利用構想図である。現行の国土利用計画ではわかりにくい部分もあるので、次期国土利用計画では配慮したい。

- 【〇〇委員】

- ・産業別就業人口を見ると、後継者問題等により第一次産業が減っている。日本は自給率が低い。様々な世界情勢により物価が高騰しているので、もっと自給率を高めるといいと思う。

→【田中会長】

- ・事務局は、最近の農業委員会の内容を把握しているか。

→【事務局】

- ・外国人による農地の貸し借りが行われているが、理解がされない部分が多いと聞いている。また、認定農業者を増やし、農地を集積し、効率よく農業を実施する議論をしていると聞いている。

→【田中会長】

- ・農業に対する問題意識を審議会でも共有していきたい。

- 【田中会長】

- ・最後に、鈴木オブザーバーから一言いただきたい。

→【鈴木オブザーバー】

- ・委員のみなさまからのご意見は、県としても非常に参考になる。吉田町の特徴は、コンパクトな町であり、まちづくりがしやすいと思う。また、人口も3万人ほどで、計画づくりにおいても住民の意見が反映されやすいと思う。計画改訂は来年度だが、今年度1年間かけて高校生や各種団体へヒアリングを行い、データを収集しており、非常に丁寧な進め方だと感じた。来年度はそれを形にしていく。この計画を実行していくのは、役場だけでなく、オール吉田町で実行していくことだと思う。

以上